

多様性の尊重～凛とした、しなやかなげんさんとの対話を通じて

櫻井尚美（23S2018）

驚きと共に、げんさんが今回のゲストであることを知りました。

性同一性障害の診断を受け、性別変更の手術要件が違憲であるという判決の原告であるげんさんに、どのように向き合い、どのように話を聞けばよいのか、少し戸惑っていました。

それは性的マイノリティの視点ではなく、注目を集める裁判の原告者であるという観点からでした。

お話を聞いて私が感じたこと、それは

凛としたげんさん

優しいげんさん

竹のようにしなやかでレジリエンスの心を持つげんさん、でした。

私は学生時代に医学概論の授業で、見た目は女性だけれども生殖機能がない女性や精巣を持つ女性の存在を知りました。

見た目は女性だけれども女性ではない方、見た目は女性だけれども医学上は男性と判断される方、女性でも男性でもない方がいることを知りました。

それは 1990 年代で、まだ多様性やジェンダーレスという言葉がありませんでしたが、普通であることが普通でないことが世の中に存在することを知りました。

はっきりとした言語化された概念ではありませんでしたが、多様性、見た目の性別だけではない性があることを認識しました。

そうした世界で、人々が決めた見た目を基準にした分類に当てはまらない人々を人間として認め、尊重していくことの重要性を、あなたの話を聞きながら学生時代の話思い出しました。

手術によって世間が決めた性別に適合しなければならないという考えは根本的におかしいです。その考えの根底には見た目の性別があります。生まれつきの性別と自己認識の性別のギャップに苦しむだけでなく、身体も適合させるという負担を強いられることはありません。

げんさんが健康で幸せに暮らせますように心から祈っています。